

授業概要

幼保小連携を視野に入れ、児童の発達段階に合わせた「生活科の学び」を実践できる指導力を身に付けるために、学習指導要領「生活」に沿って、9つの学習内容の理解を深める。学生の主体的な学習を推進し、生活科教育に関する専門知識を活用した授業力を高めるために、演習を中心に授業実践例を用いて教材研究を行い、学習指導案作成や模擬授業を取り入れるなど実践的に学べるようにする。子どもの表現やICTを活用した授業についても理解し、活用できるようにする。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の目的と進め方について知る）	生活科の誕生と歴史
第2回	教科目標、生活科の学習内容と階層性について	
第3回	学習内容（5）の授業展開と解説	教材研究
第4回	学習内容（5）の体験授業	
第5回	活動カードを使った模擬授業	
第6回	学習内容（1）（2）の授業展開と解説	教材研究
第7回	学習内容（3）（4）の授業展開と解説	教材研究
第8回	学習内容（6）の授業展開と解説	教材研究
第9回	学習内容（6）の学習指導案の作成と指導案検討会	
第10回	学習内容（6）の体験授業	
第11回	活動カードを使った模擬授業	
第12回	学習内容（7）（8）（9）の授業展開と解説	教材研究
第13回	児童理解と生活科	ICTを活用した生活科の授業
第14回	単元づくりと年間指導計画の作成	
第15回	学習のまとめ、課題レポートの作成	
第16回		

到達目標

- ・「生活科」における教科目標や子どもの学びについて理解できる。（知識理解）
- ・生活科の学習内容についての理解を深め、教材研究を通して学習指導案を作成し模擬授業ができる。（技能）
- ・気づきの質を高める手立てや子どもの表現活動、カリキュラムマネジメント、ICTの活用等について考えることできる。（思考）

履修上の注意

- ・予習・復習をしっかりと行い、授業内容を活用した学習指導案の作成や模擬授業に臨むこと。
- ・欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。

予習・復習

- ・シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前に必ずテキストをよく読み、講義内容が理解できるようにしておくこと。
- ・復習として授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておくこと。
- ・予習、復習共に必ず毎回30分以上の時間をかけること。（質問等あれば次回の授業で対応します）

評価方法

- ・受講態度や授業の振り返りコメント等の平常点 50%
- ・最終回における 課題レポート 50%

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版
- ・出版年（ISBN）：2018年（978-4-491-03464-5）